岩櫃城跡（吾妻郡東吾妻町）

いわびつじょうあと

築城年代：鎌倉時代、築城者：吾妻氏

ここはJR吾妻線の郷原駅/右上に岩櫃山の岩肌がそそり立つ

岩櫃城跡はこの岩肌の右手中腹に展開する

岩肌をアップで見る

駅前にあった説明坂/「郷原遺跡」と「岩櫃鷹の巣岩陰遺跡」について記されている

郷原遺跡・ハート形土偶出土

この地は、縄文時代後期（約４，５００～３，３００年前）のハート形土偶の出土地です。

ハート形土偶は、昭和二十年に郷原駅の西方約五十メートルの地点で道路工事中に偶然発見されたもので、そのみごとな造形美から昭和六十年に国の重要文化財に指定されました。現在は東京国立博物館に保管されているこのハート形土偶は、高さ三十・五センチメートルもある大型のもので、その芸術性の豊かさとともに、縄文時代の代表的な信仰遺物として教科書にも掲載されるなど縄文時代を代表する著名な遺物となっています。

土偶は、土で造られた縄文時代の呪術具で女性を象ったものとされ、狩猟採集社会のなかで、新しい生命の誕生や豊かな生活を求めて、祈りを捧げたものと考えられています。

郷原遺跡は、昭和五十九年に旧吾妻町教育委員会によって発掘調査がおこなわれ、多くの住居跡や遺物類が出土しました。このことによって、縄文時代から平安時代にいたる長い間、この地で生活が営まれていた一大集落遺跡であることが判明したのです。

また、この地は彼方にそびえる岩櫃山に弥生時代の再葬墓跡である岩櫃山鷹の巣岩陰遺跡が発見されているとともに、その山腹には真田氏ゆかりの岩櫃城跡があるなど、豊かな歴史にはぐくまれたところでもあるのです。

ハート形土偶

平成二十七年度
東吾妻町
東吾妻町教育委員会
東吾妻町観光協会

さて、ここは岩櫃山への平沢登山口駐車場/ここを左手に進む

正面の建物は観光案内所

観光案内所を過ぎて右手に進み、前方を左手に登っていく

ここが「城の口」で、岩櫃山への登山口になるのだが、途中の中腹に岩櫃城跡が展開している/左手に登山口休憩所がある

伊藤園
岩櫃山登山口休憩所

パンフレット等が所狭しと置いてある

右手に「吾妻町指定史跡　岩櫃城跡」と記された標柱が立つ/説明坂もある

岩櫃城跡　Iwabitsu-jo Castle Ruins　東吾妻町指定史跡

岩櫃城は岩櫃山（標高 802m）の中腹東面に築かれた典型的な中世の山城であり、山頂より約 200m 低い場所に本丸・二の丸・中城があり、これらを中心に広い範囲で竪堀や曲輪が点在します。

岩櫃城はその築城時期や築城者については定かではありませんが、文献によれば南北朝の時代に初めて岩櫃城主吾妻太郎行盛の名が登場します。行盛は、南北方の豪族里見氏に攻められ自害したと伝えられます。その後行盛の子、憲行が関東管領上杉氏の支援によって岩櫃城を奪回し、その後、斉藤越前守憲広（基国）まで六代にわたる東吾妻支配の本拠となりました。

要害地区略図

戦国時代の上州は甲斐武田氏、越後上杉氏、小田原北条氏による支配権争いが繰り広げられ、永禄六年（1563）斉藤越前守憲広（基国）の本城であった岩櫃城は武田信玄の家臣である真田幸綱（幸隆）の手によって落城し、武田氏の西上野支配が確立しました。幸綱の推挙により、武田信玄から岩櫃城代に海野長門守幸光が命ぜられ、真田の先兵となり十七年の長きにわたり吾妻の地を守りました。天正九年の海野兄弟誅殺の後、岩櫃城は真田昌幸の嫡男信幸を城代とし、弟である信繁（幸村）がここで一時代を過ごしたとも言われています。

武田氏の滅亡後この地は真田氏の支配となり、岩櫃城は信州上田城から上州沼田城を結ぶ真田道の中間地点として重要な位置を占めることとなりました。

徳川幕府開設後も吾妻地域は真田氏の支配となりましたが、徳川家康による「一国一城令」に伴い、慶長二十年（1615）頃、真田信幸は城下町を現在の原町に移し岩櫃城を破脚し、岩殿城、久能山城と並び武田の三堅城といわれた岩櫃城も戦国時代の終焉と共にその役割を終えました。

東吾妻町

現在地から「中城」を通って「二の丸」、「本丸」（この図では左の「虎口」と記された方向）へと進んででみる/図の上が北方向

西

東

南

いわびつやま　岩櫃山登山コース　Mt Iwabitsu

岩櫃山

吾妻八景を代表する景勝地として知られている岩櫃山は、標高802mの怪岩からなる切り立った岩山です。南面は約200mの絶壁で、その山容は中国画のような独特の趣があります。山頂からの眺めはすばらしく近景には原町、中之条の市街地、遠景には上州の山々が広がり、晴れた日には遠く富士山も望めます。新緑・紅葉のシーズンには多くのハイカーで賑わいます。

群馬原町駅からのコース

■沢通り(タイム:登山口より40分)

滝蛾山の不動堂や不動の大滝、岩櫃城址などの見所あり。
岩櫃登山の代表的なコース。

群馬原町駅 —1.2km 18分— 滝蛾山入口 —0.4km 6分— 不動堂 —0.2km 5分— 滝頭 —0.4km 15分— 滝蛾山(観音山)

0.7km 10分 — 登山口(一本松)(群馬原町駅から車で約5分) —0.05km 1分— 尾根通り分岐点 —0.3km 5分—

本丸跡分岐点 —0.55km 16分— 櫃の口 —0.5km 13分— 九合目 —0.1km 5分— 岩櫃山頂

■尾根通り(タイム:登山口より約50分)

登山口 —0.05km 1分— 尾根通り分岐点 —0.5km 10分— 本丸跡 —0.65km 20分—

赤岩通り分岐点 —0.1km 2分— 櫃の口 —0.5km 13分— 九合目 —0.1km 5分— 岩櫃山頂

郷原駅からのコース

■密岩通り(タイム:登山口より約45分)

中・上級者向けコース。断崖絶壁を伝って登ったり、
細い岩の架橋(天狗の懸橋)を渡ったりする。登山気分を満喫できる。

郷原駅 —1.25km 18分— 古谷T字路(案内板) —0.2km 6分— 密岩通り登山口

0.1km 5分 — 密岩神社分岐点 —0.35km 20分— 尾根鞍部 —0.1km 5分— 天狗の懸橋

0.08km 5分 — 鷹ノ巣入口 —0.05km 3分— 御嶽 —0.1km 5分— 岩櫃山頂

■赤岩通り(タイム:登山口より約40分)

ブナなどの広葉樹林の中を行く山道コース。
少々急な登りもあり。

古谷T字路 —0.3km 5分— 赤岩通り登山口 —0.6km 20分— 赤岩通り分岐点

0.1km 2分 — 櫃の口 —0.5km 13分— 九合目 —0.1km 5分— 岩櫃山頂

これは現在地から見た平沢集落/根小屋地区であったようだ

さて、左は岩櫃城本丸跡、右は岩櫃山方面/左手に折れて「中城」方向へと登っていく/右手の道は後ほど行ってみることとする

こんな看板が！

ここからは斜面が段切状になっていて、曲輪群が置かれていたらしい

右手を見るとその斜面の足元に堀跡が延びている

更に登っていく

突き当たりの上が「中城」と呼ばれる所

左手を見ると堀跡が延びている

こんな感じ/この先で堀跡は左手に折れて山裾へ下っている

反対に右手を見たところ/同じく堀跡が延びている/「中城」のエリアからその先は「二の丸」方向へ続いている

さて、突き当たりを左手に折れて登る

この右手が「中城」

こんな感じ/なだらかな斜面となっている/上の方に平場がある

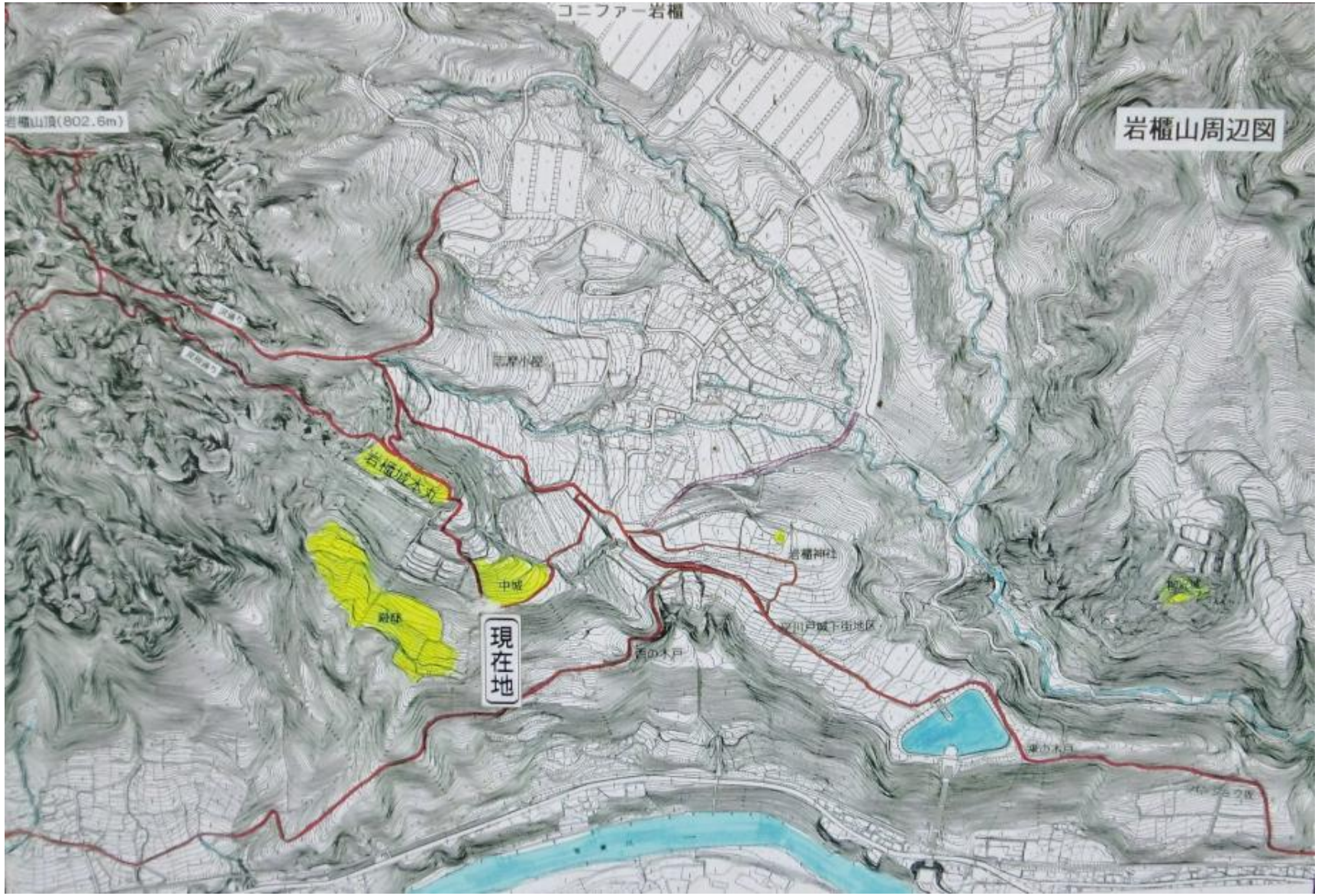
「中城跡」とある

更に進む

正面を右手に登っていくと「二の丸」、「本丸」方面

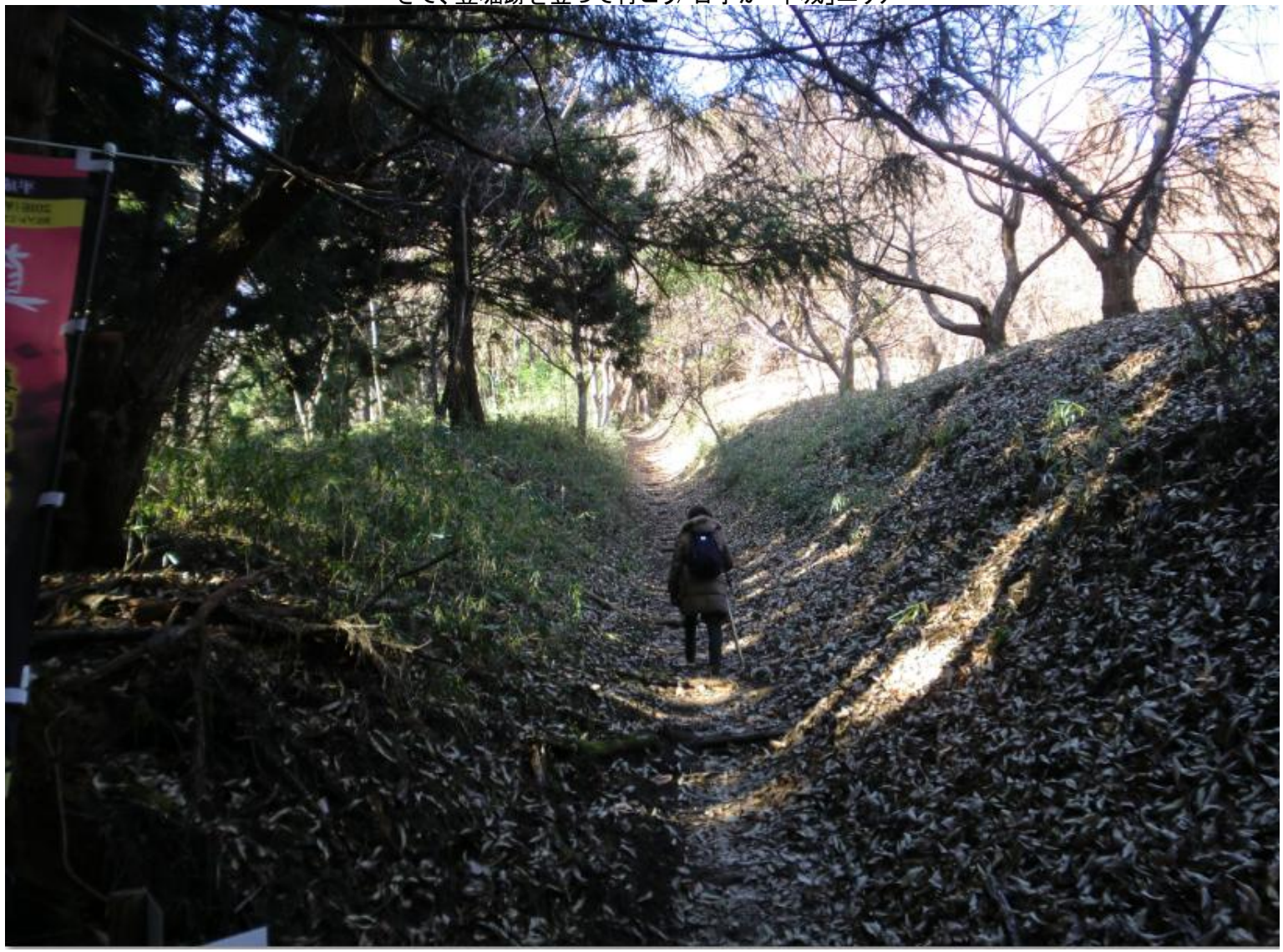
まっすぐ進んだ場合は左下のエリアに「海野屋敷」（「殿邸」とも）があるようだ

「二の丸」、「本丸」へはここを登っていく/この道も堀跡（竪堀）の一つ/案内図がある


岩櫃山周辺図
コニファー岩櫃
岩櫃山頂(802.6m)
岩櫃城本丸
中城
現在地
岩櫃神社
西の木戸
東の木戸

振り返るとこの竪堀跡は斜面を下っている

さて、竪堀跡を登って行こう/右手が「中城」エリア



途中、やや左手にクランクする

そこで右手を見ると上に平場がある/ここが先ほど見た「中城」のなだらかな斜面上の平場で、「中城」を含めて「三の丸」とされる

そこから「中城」のゆるやかな斜面を見降ろしたところ

また、左手を見ると下に堀跡がある

更に左手を見たところ/堀跡は斜面を下っていく

さて、「二の丸」、「本丸」を目指そう

竪堀跡もようやく緩やかな堀跡になった/この右手に「二の丸」、「本丸」がある

ベンチがある/右手の階段を登っていくと「二の丸」、「本丸」がある

右手をベンチから見たところ/堀跡の上に平場があり、更に堀跡（竪堀跡）を挟んだ向こうに「本丸」がある/「二の丸」は写真の右手方向

さて、「二の丸」、「本丸」へと階段を登ろう/左上の所が「本丸」

左手を見たところ/これがベンチから見た堀跡上の平場で「本丸」南の「腰曲輪」/右手の上が「本丸」

正面の上が「本丸」/その手前は堀跡（竪堀跡）となっている

これは右手の「二の丸」を見たところ

これは「二の丸」から堀跡を挟んで「本丸」を見上げたところ

少し左手を見たところ/左手の白い標柱には「二の丸跡」とある/堀跡は右手に折れながら下っている

堀底に降りて見たところ

こんな感じで下っていく

そして竪堀となって南方向へ下っていく

反対に北方向を見たところ

その先は急斜面となっている

これは「本丸」への階段を登って「二の丸」を見たところ

これは「二の丸」から北の方角を見たところ/下は平沢集落

さて、これが「本丸」への階段を登るとこんな感じ

さて、これが「本丸」への階段を登った所/東屋が建っている/その前方は一段高くなっていて、そこに城址碑があり、そこが「本丸」

左手を見たところ/この平場は「腰曲輪」のようだ/前方に標柱が立っている

「竪堀」とある/先ほどの「二の丸」と「本丸」を区切る堀跡が南方向に下って竪堀跡となるもの

こんな感じ

遠景を見たところ

さて、この先も平場が続く

こんな感じ/この先には「南桝形虎口」があるらしい

左手には「腰曲輪」の表示がある/「南桝形虎口と二の丸から本丸に登る通路で本丸南面を守る郭」とある

さて、一段高くなった城址碑のある「本丸」へ登ってみよう

この平場が「本丸」

岩櫃城本丸址

岩櫃城本丸址
岩櫃城山来記

岩櫃城由来記

吾妻八景を代表する岩櫃山（標高八〇二メートル）の中腹東面にあるこの城は、年代は定かではありませんが、鎌倉時代初期のころ、吾妻太郎助亮（すけふさ）により築城されたといわれています。城郭（じょうかく）の規模は一・四キロ平方メートルと上州最大を誇り、後に甲斐の岩殿城、駿河の九能城と並び武田領内の三名城と称されました。その後、斎藤氏の支配するところとなり、永禄六年（一五六三）武田信玄は上州侵略のため、重臣真田幸隆に岩櫃城攻略を命じました。ときの城主は斎藤基国（または憲広）といわれ堅城を利して奮戦しましたが、ついに落城してしまいました。こうして岩櫃城は武田氏の手中に落ち、信玄は幸隆に吾妻郡の守護を命じました。天正二年（一五七四）に幸隆が世を去り、岩櫃城主には長子の信綱が収まりましたが、翌年、長篠の戦いで信綱、昌輝兄弟が戦死したため、真田家は幸隆の三男、昌幸が相続しました。その後、昌幸の長男信幸が支配し、信幸の弟幸村も少年時代をこの城で過ごしたといわれています。天正十八年（一五九〇）北条氏の滅亡により、信幸は初代沼田城主となり、岩櫃城は沼田の支城として、重臣出浦対馬守（しまのかみ）を城代としました。そして、幾多のドラマの舞台となった岩櫃城も徳川家康が発した一国一城令（慶長二十年〔一六一五〕）により、四百余年の長い歴史を残し、その姿を消しました。

東吾妻町観光協会

こんなものもあった

これは東屋の背後（北側）にある土塁

左手を見ると土塁は西方向にも続いている

右手（北側）は急斜面となっている/左手は「腰曲輪」

「腰曲輪」から見たところ/この先も西方向に延びている

振り返って見たところ/右手が「本丸」及び「腰曲輪」

この先（西方向）に行ってみよう

ここが「本丸」の北西側にある「北桝形虎口」

本 丸
北枡形虎口

こんな感じ/前方方向が「本丸」

前方方向が「本丸」/左手下が「北桝形虎口」/また、右手の方には「南桝形虎口」があるようだ

ここが「南桝形虎口」

本 丸
南枡形虎口

こんな感じ/前方方向が「本丸」

そこで「腰曲輪」の南側下を見ると堀跡が見える

その堀底へ降りて東方向を見たところ

土塁上から見たところ

東方向へ進むと先ほどの竪堀跡が見えてくる

左手上が「本丸」方向

その竪堀跡を「本丸」方向に見上げたところ

振り返ると竪堀跡が南方向に下っていく

さて、「本丸」の西側の「北桝形虎口」があった所から更に西方向に登って行こう

一段登り切ると平場がある/ここも曲輪であろうか

こんな感じ

上から見たところ

更に西方向にもう一段高い所がある

平場となっている/これも曲輪であろうか/前方が西方向

こんな岩があちこちに突き出ている/南面

こちらは北面/この方向の下へは堀跡があり、「一の木戸」へと続くようだ

西方向を見たところ/この先は岩櫃山の山頂へとつながるようが

岩櫃山の山頂を見たところ

岩肌がそそり立っている

さて、これはこの二つの曲輪の北側下にある堀跡を見たところ

さて、「城の口」に戻って、今度は「中城」（左手）ではなく、右手を進んでみよう

この道は堀跡でクランクしながら西方向に延びている

曲がり角にある「竪堀」/「この空堀も通路でここで中城から来る竪堀を受ける」と記されている

こんな感じ

更に進もう

左手は山の斜面だが、右手は緩やかな段切状になっている

こんな感じ

そこに「志摩小屋（水曲輪）」と記された標柱が立っている

更にこの先は「一の木戸」へと続くようだが、時間切れで引き返すこととする

振り返って見たところ

さて、正面を登ったエリアは「城の口」のすぐ東側にある「天狗丸」

岩櫃神社もあるようだ

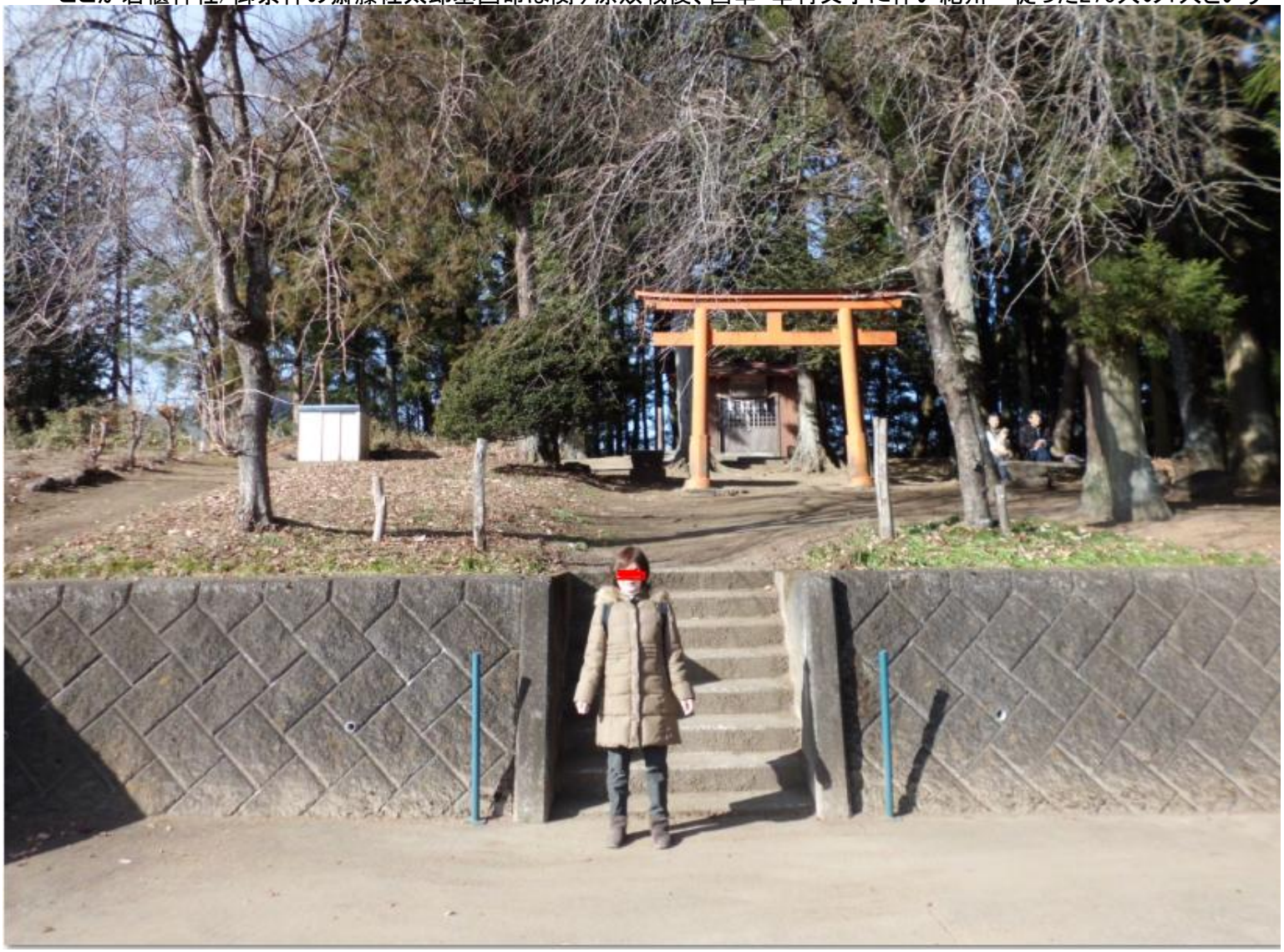
天狗丸
進入禁止
この先、関係車輌以外の
進入を禁止いたします。
岩櫃神社へは徒歩にて
お出かけ下さい(徒歩2分)
東吾妻町観光協会
岩櫃神社
入口

この辺りが「天狗丸」か/正面の高い木々の所に岩櫃神社がある/北東方向を見たところ

振り返ると向こうに岩櫃山が見える

右手を見ると平沢集落が見える

ここが岩櫃神社/御祭神の斎藤佐太郎基国命は関ヶ原敗戦後、昌幸・幸村父子に伴い紀州へ従った275人の1人という



拝殿

本殿

さて、今度は密岩神社に行ってみよう

右手前方がその場所

その更に右手の間近には岩櫃山の岩肌が見える

ここが密岩神社

十二
Panasonic

密岩神社のいわれと御利益

その昔、岩櫃城に居てこの地を治めていた吾妻太郎壽藤基国は永禄六年、武田の先方真田幸隆に攻められ城を逃れたが、奥方、若君、姫君とちりぢりになりました。

このとき身ごもっていた奥方は、逃れ逃れて岩櫃山の洞穴の中で密かに腹の子を産み落とし育てました。

夫基国を慕う奥方はこの子の行く末を里人に託し、旅に出ました。しかし、訪ねても訪ねても夫を探し出すことは出来ませんでした。精根尽き果て、ようやくこの地に戻った奥方でしたが、その命は、洞穴の中で露と消え果てました。

すると不思議や、一すじの煙が立ち上り観音の姿が現れやがて、かき消すように消えると屁の跡形も無くなっておりました。

里人は奥方の不運を哀れんで、密岩権現として祭り、手厚くその霊を慰めてまいりました。

山腹にある奥宮は、昭和の末頃より落石が多く立ち入りが困難となりました。

里宮建設は古谷集落の悲願でしたが、平成二十三年五月五日、ご神体の遷座式を行うことが出来ました。

御利益は、五穀豊穣、家内安全、安産子育て、です。

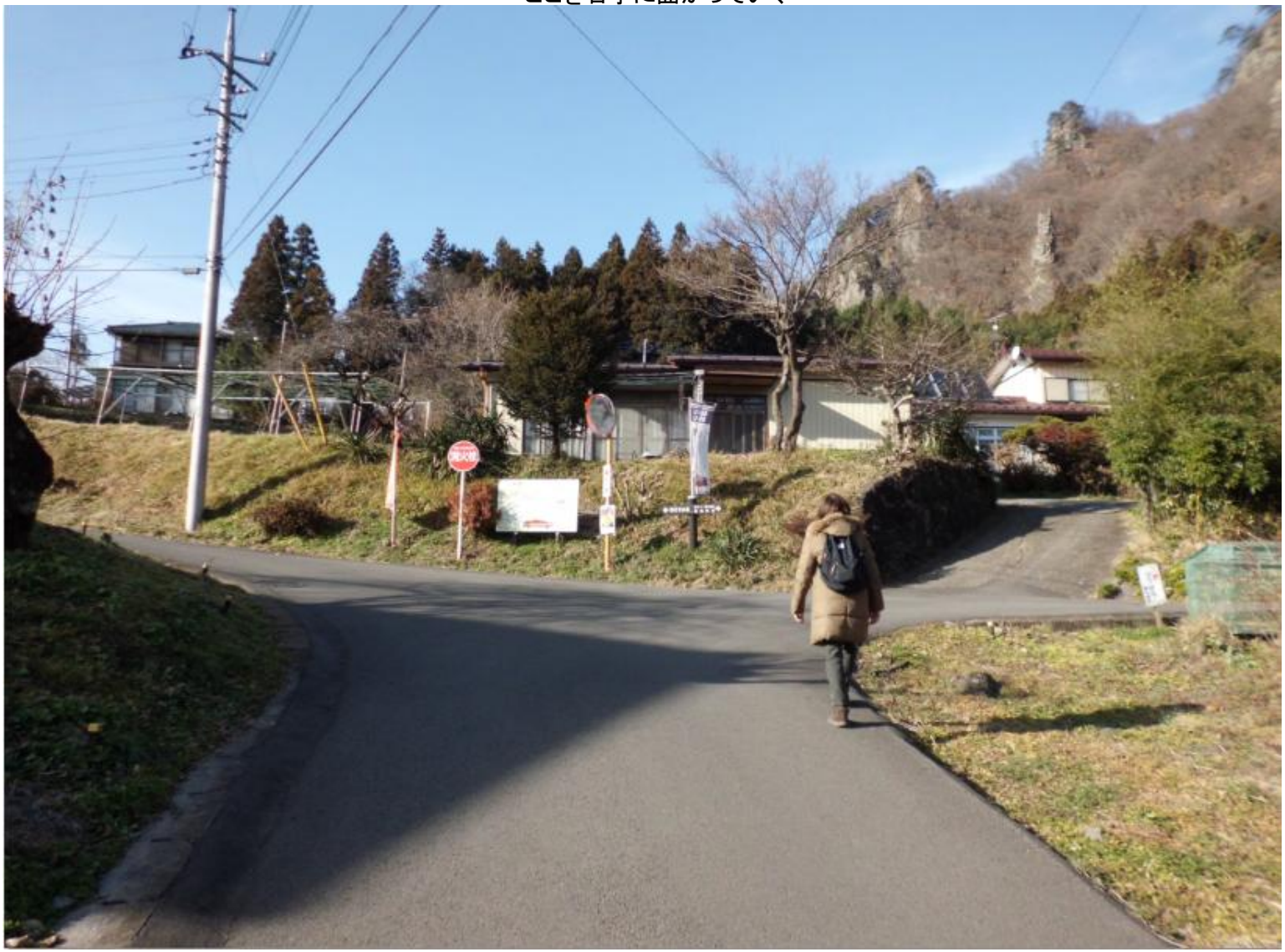
特に安産子育ては、真綿を赤い布でくるみ乳首に似せた、ほおずきを奉納するとお乳の出が良くなると、昔から伝えられております。

祭日は、毎年五月五日です。

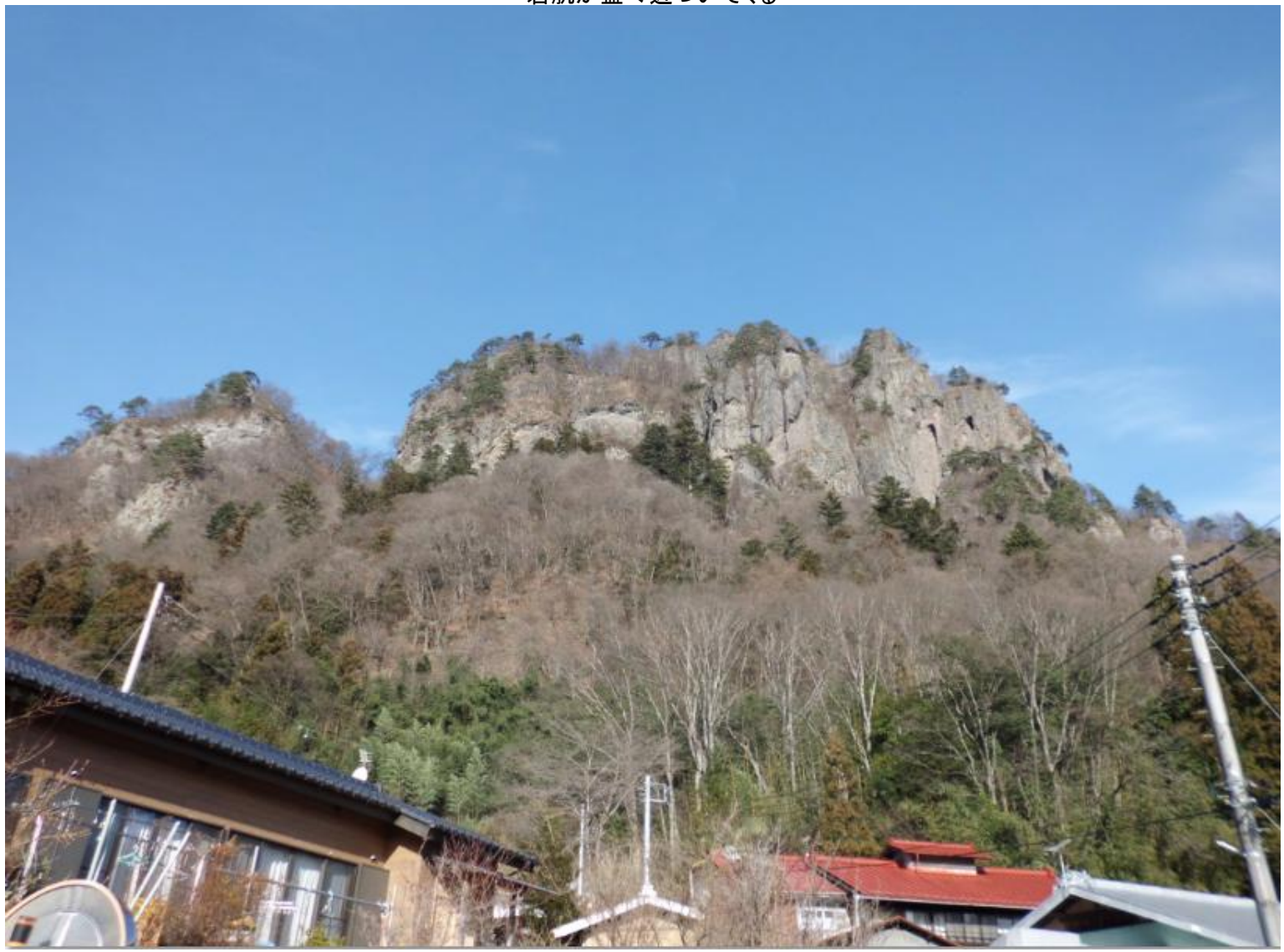
平成二十八年正月吉日
古谷区　氏子中

さて、岩肌に沿って次の潜龍院跡へ行ってみよう

ここを右手に曲がっていく



岩肌が益々近づいてくる



アップで見たところ/この岩の上に弥生時代の再葬墓跡である「岩櫃鷹の巣岩陰遺跡」があったとは驚きである

この右手の山腹に岩櫃城跡が展開している

「クマ出没地」とあるが・・・

先へ進もう/虎口のような感じ

少し進むと開けてきた

ここからも岩櫃山への登山ルートとなっている

そしてこのエリアが潜龍院跡

潜竜院跡（せんりゅういんあと）

武田勝頼を迎えようとした御殿跡

戦国時代の天正十年（一五八二）三月、甲斐の武田勝頼は織田・徳川の連合軍に攻められていました。軍議の席上、真田昌幸は岩櫃城に勝頼を迎え入れ、武田の再挙を図ることを提案して許されました。昌幸は急ぎ帰国し、岩櫃山南面のこの地に勝頼を迎えるための御殿（現在は石垣が残るのみ）を三日間で造ったと言われています。

しかし、勝頼は吾妻の地に来ることかなわず天目山で自刃してしまいました。このときに勝頼が吾妻に赴いていたならば、この地は戦乱の舞台として時代の中心的立場に置かれていたことも十分に推測されます。

急造された御殿は昌幸の一族である根津潜竜斎という山伏が拝領して寺とし、厳下山潜竜院と称して明治にいたり、明治一七年にその護摩堂が原町顕徳寺の本堂となっています。

岩櫃城の概要

本丸跡は、この地より北東側に直線で約七五〇メートル。岩櫃山の東面に南北朝のころ築城されたといわれています。城郭の規模は一三六ヘクタールと上州最大規模を誇り、真田支配下の城として武田領内の三堅城と称されました。

城主は吾妻氏、斉藤氏と続き、永禄六年（一五六三）武田信玄の家臣真田幸隆の支配下となり、真田の城として吾妻郡統治の中心的役割を果たしましたが、徳川家康が発した一国一城令（元和元年（一六一五））によりその姿を消しました。

東吾妻町観光協会

広大な平場となっている/この更に先には郷原城跡があるようだ

反対側から見たところ

帰路に就くことにする/やはりこれは防御地形

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/241iwabitsu/iwabitsu.html

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Iwabitsu/

http://4619.web.fc2.com/shiro240.html

http://www.sengoku.jp.net/kanto/shiro/iwabitsu-jo/

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-253.html

http://yogokun.my.coocan.jp/gunma/agatumamati.htm

http://orenoshiro.blog.so-net.ne.jp/2014-01-03

http://www.zephyr.dti.ne.jp/bushi/siseki/iwabitsu.htm

http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/iwabitsu-jyo/

http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/iwabitu.htm

http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-275.html

http://www.komainu.org/gunma/agatsumagun/iwabitsu/iwabitsu.html

https://notebookofatrip.blogspot.jp/2015/12/iwabitsu-mitsuiwa-sanada.html

http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-2787.html

http://eritokyo.jp/independent/aoyama-agatsuma04.htm

利根川
片品
水上
17
摩耶ノ滝
上毛高原
横手山
405
120
沼田
145
292
黒檜山
東吾妻
353
嬬恋
長野原
上越新幹線
渋川
146
406
榛名湖
関越道
前橋
安中榛名
利根川
軽井沢
安中
高崎
354
10 km
(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN